

週報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会堂

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

(前週よりのつづき)

新聞には、「コンクリートが消え、むき出しになった台座の鉄筋」の映像(2022年5月19日)も掲載されています。「鉄筋コンクリート製」というものは、一般的には、「鉄筋コンクリート」であるから、意味があると言うか、この場合は「台座」たり得るのであって、「鉄筋」だけだったら、かなり困るはずで、「東電は、原子炉には横からの支えもあることなどから『大規模な損壊に至る可能性は低い』とする」「地震で沈下する可能性は否定できない」としています。

この台座の鉄筋コンクリートが消え、「むき出しの鉄筋」「コンクリートが消失」については、その事の意味、「危険」について、「差し迫る、福島原発1号機の倒壊と日本滅亡」(著:森重晴雄/せせらぎ出版、2023年)で、森重晴雄さん(元三菱重工、主席技師)が、「ますます高まる危険度」と「回避できる」技術的な対策について提案しています。

「福島第一の1号機は、核燃料が溶け落ちたため、その高温によってペDESTAL(土台の部分)の基礎コンクリートが溶けてなくなり、鉄筋がむき出しになっています。さらにむき出しになった鉄筋もすべて切れていると推定できます。そのため、300ガル(震度6弱)の地震で1号機が倒壊する恐れがあります。」

と「推定している」のは前掲書の著者の森重晴雄さんです。「…若いころ、鹿島建設と共同で原子炉の耐震研究を行ったことがあります。そのときの研究対象が、偶然にも福島第一原子力発電所の1号機でした。ですので、その私が理論的に計算して出した結論が、震度6弱の地震で1号機が倒壊する恐れがあるということです。」

森重さんは、コンクリートが消失し、鉄筋がむき出しになっている鉄筋についても、発表されている映像から、その損傷具合を検討しています。「…鉄筋が伸び

た」状態になっていること、結果「鉄筋が切れていること」「…鉄筋の頂部に破断された形跡が見えます。インナースカートが縦に21mmも熱伸びしたのですから、この1本だけが破断されたとは考えられず、ペDESTALの基礎を構成するすべての鉄筋が破断されていると推定するのが妥当です。」

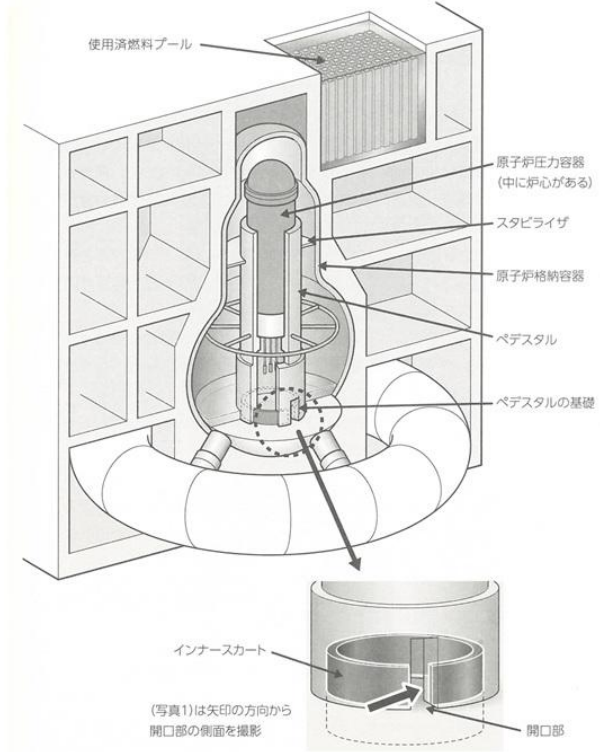


図1 福島第一原子力発電所1号機の構造

この原子炉压力容器は、原子炉格納容器の中に収められていますが、压力容器が転倒した場合、原子炉格納容器を支え切れないことを推定し、更に転倒方向についても検証し、森重さんの検証による推定は「…使用済み燃料プールに向かって倒壊する」です。(森重前掲書35~39ページ)。

1号機の使用済み核燃料プールには、事故後も392体の核燃料(使用前も含む)が収納されています。建屋の操作、遠隔操作用のクレーンがプール内に落下したりしている為、取り出すことが難しいままになっているからで、その作業も、15年経つ今も進んでいません。

(次週につづく)

